



事故・トラブルが多発 原発も再処理工場もいらん!

国民の約半分が反対している原子力(核)発電。しかしそれを推進している電力会社や六カ所村再生処理工場で事故やトラブルが多発しています。

■関西電力過去二年の実例(若狭の原発を考える会・木原壯林氏のまとめ)

◎美浜町のヘリ運搬資材落下(毎日新聞二〇一六年三月十八日)



◎ヘリから八〇〇キロ鉄板落下 関電資材運搬中に山中へ 奈良・十津川(産経新聞West二〇一六年八月五日)

◎高浜原発 大型クレーン倒れる…建屋二棟、一部損傷(毎日新聞二〇一七年一月二十一日)

◎作業員が親指切断 大飯原発、安全点検の中 福井(時事通信二〇一七年三月三〇日)

◎作業員、右足骨折の重傷 関電・労災相次ぐ 大飯原発(毎日新聞二〇一七年四月二六日)

◎高浜原発で男性作業員が重傷 トンネル掘削などの作業中(福井新聞二〇一七年七月十三日)

◎黒礁第二発電所の北又えん堤修繕工事中のヘリコプターからの運搬物の

落下について(関電プレスリリース二〇一七年八月三日)

◎高浜原発の構内で作業員がやけど

過去二年間に、分かっているだけでも八件の事故が起きています。慎重の上にも慎重を期さなければならぬ原発の現場で何が起きているのでしょうか?

■ミス認めない姿勢
は重大事故を起こす

高浜原発作業員のやけどについて福井新聞九月二日の報道をみますと、関西電力高浜原発三、四号機の新規制基準対応設備で起きた作業員の負傷事故について関西電力はポンプの作業手順書に、停止時の手順を明記していなかったから「操作ミスとはいえない」という説明を繰り返したとあります。作業手順の一部がないこと自体がミスなのに、ミスとはいえないとはなんとということでしょうか。

関電としては、複数の

作業員で行う作業で「連携に誤りはあった」としながらも「社としては操作ミスという認識ではない」という態度。真夏に湯気が立つほどだったという熱水の温度も「測っていないので分からない」と説明したそうです。

こんなにもいい加減な、事故と真摯に向き合わない態度では、繰り返すのも当然です。そして、そのような積み重ねは、いずれ重大事故に繋がります。

■点検怠るも虚偽記載
六ヶ所村再処理工場

日本原燃の使用済み核

燃料再処理工場（青森県

六ヶ所村）で八月、非常用電源建屋に雨水が八〇〇リットル流入するトラブルが発覚しました。また、九月にも雨水約百十リットル流入しました。

ところが、この地下施設は〇三年の設置以来、一度も点検されていなかったにもかかわらず、日誌には「異常なし」と虚偽記載がされていました。原子力規制委員会は一月十一日、これを受けて保安規定違反に当たると認定、終盤にさしかかっていた安全審査は大幅に遅れる見通しです。

また、ウラン濃縮工場でも天井裏の排気ダクトに腐食があったことが二

月十四日と九月四日の点検で分かりました。九月に見つかった腐食による穴は三力所、大きいもので約二〇センチ大。さびや変色も計四四力所ありました。なんとこのダクトは定期点検の対象外で、それまで一度も点検されませんでした（怒）。

いい加減な安全対策で事故が起きたら被害を受けるのは私たちです。子や孫に原発のない社会を残すため、「原発いらない」の声を大きくしていきましょう。

アート・アド分会 N